様式１

令和元年度　　宇陀市立榛原中学校　　自己評価書（教育活動）

学校教育目標	「自らの成長を実感できる学校」～生徒の人間力向上～　　夢を持ち、未来への可能性を創造していく生徒の育成
運営方針	**学校教育目標の実現を目指し、教職員がその任務を自覚し、創意あふれる教育活動を展開する。** ・生徒の自尊感情の高揚と人権が尊重される学校づくり　（正しい判断力と強い意志を養い、規範意識を高め、自立的な生活態度を養う） ・授業の充実、改善を図り、生徒の「確かな学力」の保障　（主体的に学ぶ態度を養い、学んだことを活用する力を育成する） ・家庭や地域との信頼関係の構築及び地域に根ざした特色ある教育の推進　（自他敬愛に基づく人間関係を深め、社会連帯の精神と社会貢献する態度を養う）
前年度からの課題	**・指導方法の改善に向け、授業研究等を推進する。** **・生徒の自主的な活動を活性化する。** **・保護者・地域などとの連携。** **・いじめ・不登校対策、体罰根絶に向けた取組の推進する。**
本年度の重点	**・学習に対する意欲の向上と習慣化** **・挨拶の日常化と清掃活動の習慣化** **・体力の向上、運動の日常化と習慣化** **・生徒会活動、部活動の活性化** **・地域連携、校種連携の推進**

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価		成果と課題	課題の改善方策等
Ⅰ 教育活動に関するもの	(1)生徒指導	①挨拶の日常化	・学校内での挨拶の実施状況	・生徒アンケートの結果が８０％となったか。	A↑	A↑	●全教職員による朝の校門前での指導や、生徒会が行う専門部員や部活動生徒による「あいさつ運動」などにより、習慣化している。 ●職員室への出入りの際の挨拶も徹底されている。 ▲生徒の挨拶はできているが、運動への参加は生徒会本部や専門委員会が中心であった。 ●環境委員を中心に用具の管理、点検、補充や補修を定期的に行っている。 ●清掃時間を確保し、熱心に取り組んでいる。 ●部活動単位でボランティアで清掃活動を進めている。	【生徒指導全般】 ○全教職員が共通理解のもと誰に対しても同じ指導をすすめる。そのためにもルールや基準を明確にし例外がないようすすめる。 ○挨拶や清掃が出来ない生徒に対し、粘り強く教職員が率先して行い生活の基本を指導する。 ○生徒とのコミュニケーションを大切にし人間関係の構築に努める。 ○学年のみの連携に終わらず、全教職員がチームとして機能するような生徒指導・教育相談を徹底する。
			・挨拶運動への参加状況	・生徒アンケートの結果が７０％となったか。	B			
		②清掃活動の定着	・清掃活動に対する取り組み度合い	・生徒アンケート結果が８０％以上であるか。	A↑			
			・清掃時間の確保	・清掃時間を週３日以上確保できたか。	A↑			
	(2)学習指導	①学習指導計画	・指導計画（シラバス）の作成と実施	・各教科のシラバスを作成し、生徒に示したか	A	A	●年度当初に学年別シラバスを作成し、生徒・保護者に示した。シラバスの活用も求められる。 ●年間計画に基づいた学習指導をほぼ実施することがほぼできている。 ●授業の最初に、その時間での学習内容や到達目標を示すことで、生徒の興味・関心を高め、理解を深めることに繋がりが大きくなっている。このことで、学力向上に繋がっている。 ▲学習指導の準備等におけるＩＣＴ活用も少しずつ進み、授業におけるＩＣＴ活用についても（英語・数学・社会・理科）と徐々に機会が増えている。ただし、令和２年度より生徒一人一台パソコンを持たせる事になるが、さらなる授業改善が要求される。 ▲教科によって学習形態に差がでるが、教科に限らず道徳や学活でのグループ活動が行われている。	○シラバスで示した学習内容を習得定着させるための具体的な取組・方法を工夫し、充実させていきたい。 ○家庭学習の時間の充実にむけ保護者への周知を図りたい。県教委発行の家庭学習の手引きの活用をさらに進めていきたい。 ○教職員の自己申告（授業改善）時に指示をしている。 ○できた達成感、できそうな見通しを立てた授業づくりを進め、自己肯定感を高めた授業づくりを徹底する。　○授業のＵＤ化を全教科で進める。　○学習規律を徹底する。 ○各教科におけるＩＣＴ活用について、教師間で互いに交流し、ＩＣＴを用いて作成した提示資料については、校内サーバーに保存し、教師間での共有を行う。
			・年間計画通りに学習指導を進めることができたか	A				
		②指導方法の工夫改善	・指導方法の工夫・改善	・授業の最初に、その授業での「ねらい」を示したか	A↑			
				・生徒にとってわかりやすい板書を心がけたか	A			
				・ICT機器・教材、コンテンツ等を活用したか	B			
			・学習形態の工夫・改善	・机間指導で、個別指導を丁寧にしたか	A			
				・グループでの活動を取り入れたか	A↑			
	(3)生徒会活動、部活動の活性化	①生徒会活動の活性化	・生徒が主体となる活動の計画･実施	・生徒会が中心となるあいさつ運動を毎学期実施することができたか。	A	A	●あいさつ運動は、執行部が専門委員会や部活の協力を得て、意欲的に取り組むことができている。 ●集会や式においても生徒会が運営している。校歌の斉唱も毎回朝礼で行う。 ▲地域への貢献は一部に限られている。 ●ケガや事故のないよう生徒に徹底指導をしてきた。特に熱中症対策については、昨年度に引き続きPTAと協力した取り組みができた。 ●部活動保護者懇談会を開き、部活ごとに運営についての説明、保護者の声を聞く機会を設けた。 ●年々活動が活発になり、県大会・近畿大会・全国大会等で成果を上げている。（今年度は、ソフトテニス部が全国優勝をし、学校全体の士気を高めた。）	○生徒会活動を定例化し、生徒と共に更に新しい企画を考え、活動の幅を広げていく。 ○地域貢献が課題であるが、教員の多忙化を考える必要があると思われる。 ○ケガや事故に繋がらないよう常に心がけ指導をすすめる。また、近年の猛暑を受け活動時間及び活動内容を点検する。 ○部活動に於いては、勝つことのみに目的をおくのでなく、部活を通じての人間づくりにつなげる指導をすすめる。 ○国及び県・市の指導を受け、部活動の休養日設定は軌道に乗っている。また、運動部活動指導員の活用も順調に進んでいる。
				・執行部と専門部、部活動が連携した活動を行うことができたか。	B			
				・生徒会や部活動が地域に貢献する活動を実施することができたか。	B↑			
		②部活動の活性化	・安全な部活動の実施	・けがや事故、熱中症等に対して適切な対応ができたか。	A			
			・生徒が意欲的に取り組む部活動	・部活内でのいじめや体罰を防止し、楽しめる部活動となったか。	A			
				・部活動の約束をまもり、規則正しく元気な部活動となったか。	A↑			
	(4)人権意識の育成	①人権教育の内容点検	・人権教育推進計画に基づいた指導	・校内人権教育推進計画に基づいた指導が進められたか。	B↓	B	▲道徳の教科科に伴い時間確保が厳しい ●人権教育講演会は生徒や保護者にも好評で心に響く素晴らしい内容であった。人権意識の向上に一定の成果が見られたと思うが、普段の学校生活に生かされるような取り組みが必要である。 ●様々な場面でいじめについての講話を行ってきた。ラインによる仲間外し等、身近なところでの正しい人権感覚が求められる。 ●大和育成園の活動に積極的に取り組んだ。 ●各学年とも、概ね年間計画に沿って実施できた。本年度は２学年が研究授業を行った。 ▲多忙さが研修会等への参加を厳しくしている。	○人権学習と道徳の一体感ある計画を立てる ○普段の生徒たちの生活から見える課題につなげながら計画をたて実行する。 ○いじめや仲間外れに対する指導に保護者や関係機関並びに専門的知識人を巻き込むことも考えなくてはと思う。 ○大和育成園の学習会に全教員が参加し交流を深める。 ○生徒ひとり一人の生活実態を把握し対応をすすめる。 ○引き続き研修会等への参加呼びかけが必要。
			・人権意識の向上	・確かな人権意識を身につけさせる取組ができたか。	B			
		②人権に関する取組の推進	・人権フォーラムや学習会の組織化	・新たな活動を創造し、組織化することができたか。	B↑			
				・生徒たちにとって魅力ある活動となったか。	A			
	（５）特別支援教育の活　　性化	①特別支援教育の活性化	・特別支援計画に基づいた指導	・新たな活動を創造し、活動することができたか。	A	A	●生徒の実態に即した授業を進める ●令和元年度に通級指導を始め、定着しつつある。	○すべての教職員の協力の下、特別支援への活動を進める。 ○通級指導においては、市教委とも連携し宇陀市の拠点となるべき活動を進める。